



JAPAN HERITAGE

日本遺産

日本遺産とは…

「日本遺産(JAPAN HERITAGE)」とは、文化庁が平成27年度から創設した、文化財や伝統文化を通じた地域の活性化を図るために、有形・無形の文化財をパッケージ化し、その歴史的経緯や、地域の風土に根ざした世代を超えて受け継がれている伝承・風習などを語るストーリーを認定する制度です。

Heritage is a connection to our past: a legacy of our cultural and natural history, and an invaluable source of inspiration to pass on to future generations. The Agency for Cultural Affairs' Japan Heritage aims to promote our unique cultural traditions, encourage use of our national cultural properties, and to revitalize regional economies. Japan's tangible and intangible cultural properties have been preserved through narratives based on unique regional histories and traditions. By recognizing these stories as Japan Heritage, the Agency plans to promote these historical legacies and to provide comprehensive support so that this heritage may be effectively preserved and maintained.

文化庁 日本遺産魅力発信推進事業

【お問い合わせ先】

日本遺産大山山麓魅力発信推進協議会(大山町観光課内)

住所:鳥取県西伯郡大山町末長500 TEL:0859-53-3110

日本遺産「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」
《鳥取県自治体》大山町・伯耆町・江府町・米子市

日本遺産

地蔵信仰が育んだ

日本最大の大山牛馬市

DAISEN GYUBA ICHI

Japan's Largest Livestock Market
Born of Jizo Bodhisattva Worship

JAPAN HERITAGE

じぞうしんこう はぐくにほんさいだい だいせんぎゅうばいち
地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市

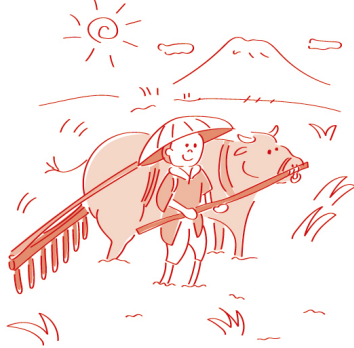
2016年4月、日本遺産に認定されたストーリーを簡単にご紹介いたします。



1

だいせん とつとりけん
大山は鳥取県にある、とても大きく美しい山です。古くから神様のいらっしゃる山として、ふもとに暮らす人たちの生活や心の支えとなっていました。

ある日、大山の山頂の池にお地蔵さまが現れました。生きているすべての者を救うお地蔵さま。それを祀る大山寺のお坊さんは、お地蔵さまは人だけでなく牛や馬も守ってくれと唱え、全国に伝え歩きました。また、大山寺では牛馬安全の守り札を配りました。



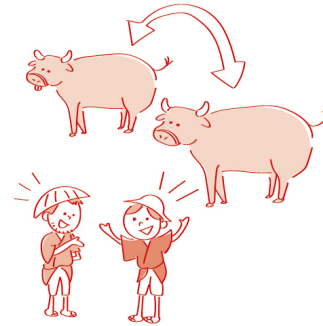
2

あちらこちらの村で、たくさんの人が農業をしている時代。農業機械など無いので、牛や馬は畑を耕したり荷物を運んだり、仕事に欠かせない存在で、家族の一員として大切にされていました。



3

だいせんじ はなし ひと かぞく
大山寺の話を知った人たちは、家族みんなの幸せと安全を願い、牛や馬を連れて大山を目指しました。そして大山の湧き水に元気をもらいながら進みました。



4

だいせん
大山にあるたくさんのお寺の集まりだった大山寺。牛や馬は境内の周りの少し離れた野原で待たせて、お参りをして守り札をいただきました。

いろいろな地域からお参りに来る人たち。それぞれの牛や馬を比べるうちに、自然と交換や売り買いが始まりました。



5

その数が増えたので大山寺が管理をして、大山寺境内の下にある「博労座」で牛馬市を開き、それまで自由に売り買いをしていた人たちからお金をもらいました。

市の回数は増えていき、今から120年ほど前には、年間1万頭以上の牛や馬が取引される、日本最大の牛馬市まで発展しました。



6

その後、牛馬市は鉄道の発展などにより80年ほど前に幕を閉じます。古道・大山道の通りには今も石畳道、宿場の町並み、農村の景観が残っていて牛馬市で栄えていた当時の様子が見えます。大山おこわや大山そばに代表される独特の食文化や大山の水にまつわる行事や風習も伝わっています。

ふもとの人たちは日々「大山さんのおかげ」と感謝の念を持ちながら大山を仰ぎ見る暮らしをしています。

Jizo Bodhisattva is believed to have appeared long ago on the summit of Daisen in Tottori Prefecture. Beginning in the Heian period (794-1185), the Daisenji Temple became a destination for Jizo worshippers who took their cows and horses there in order to ask for divine protection for their livestock. This practice resulted in Daisen Gyuba Ich, which, during the Edo period, was the largest livestock market in Japan.

The market that was born of the Jizo faith expanded into the largest cow and horse market of the Meiji period (1868-1912). Old-fashioned lodges and houses such as the farm village of Tokorogo line the stone-paved road to Daisen, reminding visitors of past eras. There are traditional local foods like Daisenokowa sticky rice, and practices of the Shinto ritual, mohitori shinji, that utilize Mt.Daisen's water. The people of Daisen continue to live their daily lives in appreciation and respect for the mountain.

14 大山御幸

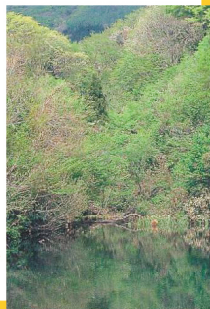


大山御幸【稚児行列】



大山御幸【御輿行幸】

15 はまなんご 神事(硯ヶ池)



池さん神事【硯ヶ池】



もひとり神事【霊水汲み】

16 もひとり神事

17 大山おこわ 大山そば



【大山そば】



【大山おこわ】

14 大山御幸

大山寺の春祭りには、七社神輿の行列が出て大いに盛り上がりしました。これを見物するのも、大山寺へ参る人々の楽しみでした。今も大山御幸として行われ、神輿は町指定文化財となっています。稚児行列とともに地域住民が参加する行事として賑わっています。

16 もひとり神事

かつて大山登山は、僧侶のみが一生に一度だけ許される命がけの修行でした。神仏分離後から、大神山神社奥宮が祈禱・霊水汲み・薬草採取を神事として受け継いでいます。大山の原初信仰を伝える貴重な行事です。

15 はまなんご神事(硯ヶ池)

大山の水信仰がきっかけとなり始まりました。大山七池の一つで、雨乞い神事として現在も行われています。

17 大山おこわ・大山そば

「大山おこわ」は牛馬市や大山参りのお弁当として重宝された食べ物です。現在も伝統食として親しまれ、家ごとの具材や味付けに個性があります。「大山そば」は牛馬の放牧とともに大山裾野で栽培を奨励された蕎麦が、牛馬市で食べられて名物となり、現在も親しまれています。

TRADITIONAL CUSTOM

現在に残る風習

大山の自然と地蔵信仰が結びつき、「大山信仰」「牛馬信仰」として長い年月をかけて西日本に大きな信仰圏を形成しました。その当時の風習が、現在も大切に受け継がれています。



もひとり神事【派遣祭】

大山さんのおかげ

THANKS TO DAISEN-SAN

① 大山

ずっと祈りの対象だった大山。地元では、親しみと尊敬の気持ちを込めて「大山さん」と呼ばれています。大山の森が育む伏流水、豊かな自然に育まれた畜産物・農産物・海産物。多様な生きものを育むブナ林は、今もわたしたち人間にも多くの恵みを授けてくれます。雄大な自然のおかげ、「大山さんのおかげ」です。



とこうご
② 大山町所子伝統的建造物群保存地区
大山道沿いの所子集落では、母屋に近い小屋で牛馬が飼われていました。集落内には牛糞石や牛馬万人供養塔などが残り、「もひとり神事」で採取された薬草を仔牛に食べさせた話も伝わっています。

③ 旧加茂川の地蔵

加茂川で亡くなった子どもたちの供養のために、お地蔵さまを建てたのが始まりとされています。



対象について
① 大山町・伯耆町・江府町
② 大山町・伯耆町・江府町
③ 大山町・米子市
④ 全域
--- 大山道を示す
その他の構成文化財については「大山寺周辺散策マップ」をご覧ください。



④ 地蔵滝の泉と地蔵滝地蔵

地蔵滝の泉は、古くから大山寺をめざす人々や牛馬が立ち寄り、喉を潤す憩いの場として知られた名泉「利生水」。現在も町の水源となっています。その隣のお地蔵さまは、人々や牛馬の道中の安全を願って建てられたものです。



⑤ 大山道(横手道)と一町地蔵

大山寺へ向かう人々のために、道しるべとして等間隔でお地蔵さまが置かれました。



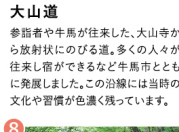
⑥ 下蚊屋の町並み

下蚊屋村は、博労座に訪れる人々の博労宿として栄えました。今も当時の雰囲気がよく伝わります。



⑦ 文殊堂

小さな赤い建物で、大山寺の西からの入り口付近にあたり、女人禁制の時節などには、ここが女人進拝所になっていました。堂の西側の広場は、昭和の初めまで大山牛馬市に往来する牛馬の休み場所でした。



⑧ 大山道

参詣者や牛馬が往来した、大山寺から放射状にのびる道。多くの人が往来し宿ができたなど牛馬市とともに発展しました。この沿線には当時の文化や習慣が色濃く残っています。



⑨ 文殊堂

小さな赤い建物で、大山寺の西からの入り口付近にあたり、女人禁制の時節などには、ここが女人進拝所になっていました。堂の西側の広場は、昭和の初めまで大山牛馬市に往来する牛馬の休み場所でした。



⑩ 大山道

参詣者や牛馬が往来した、大山寺から放射状にのびる道。多くの人が往来し宿ができたなど牛馬市とともに発展しました。この沿線には当時の文化や習慣が色濃く残っています。



⑪ 大山道

参詣者や牛馬が往来した、大山寺から放射状にのびる道。多くの人が往来し宿ができたなど牛馬市とともに発展しました。この沿線には当時の文化や習慣が色濃く残っています。

RELATION SPOTS

ゆかりスポット

鳥取県大山町・伯耆町・江府町・米子市の4つの市町で展開する、日本遺産「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」のストーリーを語る上で不可欠な魅力ある有形・無形の様々な文化財群をご紹介します。

DAISEN-JI AREA WALKING ROUTE MAP

大山寺周辺散策マップ

大山寺周辺の風習・伝承の詰まった道を、「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」のストーリーや自然を感じながら散策してみましょう。



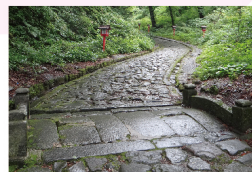
あべさん

お魚料理とウォーキングが大好き。大山の四季を感じさせてくれる植物と昆虫の観察を楽しみながら、今でも大山登山を年に1、2回行うほど元気に満ち溢れています。

おすすめ

ガイドさんに案内してもらおう!

「大山町ガイド ボランティアの会」の皆さんは、10年前より毎年約1,000人の方を対象に大山町内の総合案内を行っています。23名(2019年9月現在)の個性溢れるガイドさんは、歴史から自然まで散策中に質問すると、楽しく教えてくれます。



① 大神山神社奥宮の石畳道

牛馬市が盛んな頃に整備された参道。延長700mの日本一長いと言われる自然石を敷いた石畳道です。



② 寂静山

大山寺を隔いた金蓮上人のお墓もここにありす。



③ 熊しん地蔵

昔、異常気象が続く作物が採れず、たくさんの方が亡くなった時、「二度とこんなことが無いように」と建てられたお地蔵さまです。



④ 博労座

1937年まで大山牛馬市が開催されていた場所。現在は駐車場になっています。

● 構成文化財(数種)
● お地蔵様(数種)
● その他
● 駐車場
— 散策経路



① 大神山神社奥宮(国重文)

神仏習合であった頃の大山寺の本社。長く地蔵信仰の中心でしたが、1875年の神仏分離の政令によって大山寺が廃止された際に、現在の名前に変更されました。



② 吉持地蔵

今、唯一残っている自然の石に彫られたお地蔵さまです。



③ 大山寺本堂

現在の大山地蔵信仰の中心をなす御堂。1903年の大山寺再興の際、本堂となりました。一度焼失し、1951年に再建されています。2017年10月登録有形文化財になりました。



④ 西明地蔵

この辺りにはムササビもいますよ。爪あとが木に残っていないか見てみましょう。



⑤ 鉄製厨子(国重文)

1172年に大山寺本社(大智明権現社)を再建する際に、新たな本尊として地蔵菩薩像とそれを納める厨子が铸造寄進されたものです。



ここで紹介しているのはほんの一部です! 日本遺産の舞台へさあ、行こう!!

お申し込み・お問い合わせ先

大山町観光案内所
(コモレビト1F)
TEL.0859-52-2502

詳しくはこちらから

